

長野県飯田中学校『飯田中学 殉職学徒追悼録』

目次

本郷哲夫君

本籍 東築摩郡伍常村四五四ノ号四

出生 昭和二年十二月十八日

本郷真氏長男

昭和十五年四月五日飯田中学校入学

牧島恒君

本籍 下伊那郡泰阜村四一四三

出生 昭和元年十二月二十六日

牧島哲氏長男

昭和十五年四月五日飯田中学校入学

佐々木得一君

本籍 下伊那郡川路村五百十番地

出生 大正十五年六月十六日

佐々木金太郎氏二男

昭和十五年四月五日飯田中学校入学

高田厚敏君

本籍 飯田市本町九六二番地

出生 大正十五年五月十日

高田久四郎氏二男

昭和十四年四月六日飯田中学校入学

吉川光夫君

本籍 下伊那郡会地村駒場八六七

出生 昭和二年五月八日

吉川民三郎氏六男

昭和十五年四月五日飯田中学校入学

一、校葬写真

一、殉職学徒遺影、年譜

一、校葬経過

一、祝詞

一、祭文

一、弔辞

長野県知事。愛知県知事。衆議院議員。東部五十部隊長。下伊那教育会長。下伊那中等学校代表。長野県下中学校代表。三菱航空機製作所長。長野県出勤学徒代表。飯田国民勤労働員署長。飯田警察署長。飯田中学校同窓会幹事長。飯田中学校生徒代表。

一、弔辞、弔電等ヲ寄セラレシ学校団体芳名  
一、生徒追悼文

吉川光夫君を偲びて

新井淳逸 宮島哲夫

本郷哲夫君を憶ふ

横内滯 五十君知己

牧島恒君を偲んで

長谷川尚之 大原昭夫

級友佐々木得一君

橋爪義輔 伊原八郎

高田厚敏君に捧ぐ

浜本祐司 木下健

## 校葬経過

昭和十九年八月廿六日以来三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所大江工場ニ出動シテ航空機増産ノ作業ニ専念中、十二月七日ノ震災ノ為不幸殉職セラレタ本校第五学年生徒佐々木得一君、故高田厚敏君、故本郷哲夫君、故牧島恒君、故吉川光夫君等五君ノ校葬ガ十二月廿四日午後一時卅分カラ本校講堂ニ於テ執リ行ハレタ。コノ日、数日来ノ寒氣トミニ衰ヘテ天気快晴、天モ亦五君ノ英魂ヲ弔フカノ如クデアツタ。

午前十時五十三分、若林、金田両先生ノ先導ニヨツテ佐々木、牧島両君ノ遺骨、午後〇時四十分、小島、市瀬、西江ノ三先生先導ノモトニ本郷、高田、吉川三君ノ遺骨ガ各々遺族ニ護ラレ、各家マデ出迎ヘニ赴イタ本校生徒及親族、縁故者等ニ送ラレテ、玄関前ニ整列シタ職員同窓会役員、生徒ノ出迎ヲウケテ肅々ト母校ノ門ヲ入り正面玄関ヨリ式場ニ入ツテ清浄ナ白布ニ包マレタ祭壇上ニ安置サレタ。午後一時十分、職員、同窓会役員入場者席、ツヰイテ名古屋出動中ノ五年生代表吉沢隆夫、矢沢道夫、木下健ノ三名、遠山出動中ノ四年生代表田中久、井口喜資ノ二名ヲ先頭ニ在校生入場者席、平常上級生トシテ親シク兄事シタ五君ノ遺骨ニ対シテ一同深キ感慨ニ沈ムモノノ如ク肅然トシテ開式ヲ待ツ。

午後一時廿五分、五年生父兄、一般会葬者入場者席。ツヰイテ長野県知事閣下代理、愛知県知事閣下代理御臨席。ヤガテ莊重ナル奏樂ノ裡ニ神官並ビニ委員長横内校長先生ノ御先導ニヨツテ遺族入場、コ、ニ全員ノ着席ヲ了ヘテ、午後一時卅七分星加副委員長ノ開式ノ辞ニヨリ愈々葬儀ガ開始サレタ。

厳肅ナル修祓、奏樂裡ニ行ハレル莊重ナル献饌、神厳ナル祝詞奏上ノ儀ガ行ハレ、ツヰイテ委員長横内校長先生静カニ靈前ニ進ミ祭文ヲ奏上セラレタ。言々真ニ痛切、声涙トモニ下リ、強ク人々ノ胸ニ迫ツテ、満場ノ参列者齊シク暗涙ノ眼頭ニ溢レ出ヅルヲ禁ジ得ナカツタ。時正二午後二時。

コレヨリ、佐藤長野県教学課長ニヨリ長野県知事閣下ノ弔辞奉誦、山田愛知県属ニヨリ愛知県知事閣下ノ弔辞奉誦並ビニ愛知県学校報国団長愛知県次長殿ノ弔辞奉奠。牛山中尉ニヨリ東部五十部隊長殿ノ弔辞奉誦。片山県会議員ニヨリ衆議院議員中原諤司氏ノ弔辞奉誦並ビニ衆議院議員、県会議員ノ弔辞奉奠、佐々木飯田国民勤労労働員署長ノ弔辞奉誦並ビニ同署長ニヨリ諸官庁、会社、新聞社、各種諸団体ノ弔辞奉奠。遠山飯田市長ニヨリ飯田市長、飯田市会議員、其他飯田市関係ノ弔辞奉奠。代田下伊那郡町村長會々長ニヨリ下伊那郡町村会長、上郷村関係ノ弔辞奉奠。長野県各中学校代表吉沢諏訪中学校長ノ弔辞奉誦並ビニ同校長ニヨリ県下各中等学校、三菱名古屋航空

機製作所出動学校、郡下各国民学校、青年学校長ノ弔辞奉奠。三宅三菱名古屋航空機製作所訓育課主任ニヨリ三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所長殿ノ弔辞奉誦。三菱航空機製作所大江寮長野県学徒代表諏訪中学校生徒宮坂浩一郎君ノ弔辞奉誦。松沢飯田中学校同窓会幹事長ノ弔辞奉誦。飯田中学校生徒代表吉川隆夫ノ弔辞奉誦。ノ順序ニヨツテ、ソレトノ弔辞ノ奉誦、奉奠ガ行ハレ、ツヰイテ玉串奉奠ノ儀ニ入り、神官、委員長。遺族。長野、愛知両県知事閣下代理。來賓代表トシテ遠山飯田市長、代田下伊那郡町村長會々長、本堂下伊那郡教育分会々長、北原阿知之助氏代理片山県議。三宅三菱名古屋航空機製作所訓育課主任。同製作所大江寮長野県学徒代表。五年生父兄並ビニ一般会葬者代表山内徳重氏。飯田中学校同窓会代表松沢幹事長。飯田中学校職員代表星加教頭先生、同生徒代表吉沢隆夫ノ順序ニヨツテソレトノ各関係者列拜ノモトニ玉串奉奠ガ行ハレタ。ツヰイテ、莊重ナル奏樂ノ裡ニ撤饌ノ儀ガ行ハレ、委員長並ビニ遺族ノ挨拶ノ後、全員起立シテ唱歌「海ゆかば」ヲ斉唱。午後三時七分星加副委員長ノ閉会ノ辞ニヨツテ些ノ滞リモナク莊嚴裡ニ校葬ノ儀式ハ終了。再ビ起ル莊重ナル奏樂ノ裡ニ神官退場。ツヰイテ長野、愛知両県知事代理ヲ始メトシテ來賓、五年生父兄、一般会葬者、同窓会役員、職員、生徒退場。祭壇ノ前ニ各家ノ遺族ガ集ツテ横内校長先生ヲ中心ニ記念写真ノ撮影ヲ了ヘタ。

カクテ午後三時廿分、五君ノ遺骨ハ再ビ遺族ニ護ラレ若林、金田、小島、市瀬、西江ノ五先生先導ノモトニ見送り生徒縁故者ニ送ラレテ、玄関前ニ整列シタ職員、同窓会役員、生徒ノ見送りノ前ヲ肅々ト母校ノ門ヲ出デ墳墓ノ地ニ向ヒ、コ、ニ校葬一切ノ事ハ無事終了ヲ告ゲタデノアル。  
(葬儀委員 井上福美)

## 祝詞

是ノ長野県飯田中学校講堂ニ齋場ヲ設ケ奥山ノ深山ノ五百枝真榊ヲ嚴シク刺立テ暫シ座セ奉リ安奉ル故ノ飯田中学校五年生佐々木得一命 同ジク五年生高田厚敏命 同ジク五年生本郷哲夫命 同ジク五年生牧島恒命 同ジク五年生吉川光夫命等ノ御柩ノ前ニ齋主下平武勇嚴子ノ中執持テ謹ミ敬ヒテ白サク 惟神天ノ下知食ス天皇命ノ広キ厚キ皇護ノ隋ニ進メ給ヒ遺シ給ヘル大皇軍ハ日ニ每二烈シク及苛シク成リ行ク戦場ニ奮闘ヘル以テ国民悉々高ク尊キ聖旨ニ応ヘ奉ラマク大詔ヲ頂ニ持戴キテ負持ツ業務ヲ力メ励ムガ故ニ曩ツ日はノ学舎ノ五年生総テ任ノ務ノ隋ニ雄々シクモ学徒勤勞報國隊員トシテ兵器増産工場ニ出立向ヘルガ中ニ汝命等ハヤ同ジ心ノ誓ヒモ堅ク美ハシノ姿若人ノ眼甚晴ヤカニ勇マシクモ是ノ懐シノ学舎ヲ後ニ家人等兄弟ト袂レテ工場ノ業只一筋ニ教師ノ示図ノ許ニイソシシ務メ励ムガ程ニアハレユクリカニ襲ヒ来リシ震災禍ノ為ニ遽カニ殉職リ坐

シヌ思へバ痛マシトモ痛マシクアタラシトモアタラシキ極ニナモ サハレ汝命等ノ種種ノ苦ニ堪へ状ノ困難ヲ忍ビテ身モタナ知ラニ勞キ尽セシ御勲功ト芳ハシキ御績トハ同シ学徒等ノ心ニ深く彫刻ミテ夢放ラサズ又漸テ是ノ學舎ニ入りテ教ヲ受ケム学徒等ノ龜鑑ト後ノ世懸テ云ヒツガネ語ツガネ弥遠長ニ称奉リ仰奉レバ御心多親ニ聞食シ相語ヒ坐セト今日シモ汝命等ノ亡骸ヲバ遙遙ニ守来リ歸来リテ御前ニ學校ノ長ヲ始メ教師及学徒等家族親族ハ申サクモ更ナリ公私遠ク近クノ差別ナクイ寄集ヒテ徳ヒ奉リ称奉リテ各モ各モ赤心ノ真心ニ拜ミ仕奉ル状ヲ欣シトモ享ケ給ヒテ御極ハ奥ツ城所ニ安ケク鎮坐セ

### 祭文

惟ハザリキ 本日茲ニ佐々木得一 高田厚敏 本郷哲夫 牧島恒 吉川光夫五子ノ英魂ヲ迎へ最後ノ決別ヲ告ゲントハ

図ラザリキ 我ガ最愛ノ子弟ヲ此ノ天災ニ奪ハレントハ  
噫々想起スレバ去ル八月二十六日我ガ飯田中学校第五学年百三十名ノ学徒ハ動員ノ下令ニ接シ勇躍トシテ名古屋三菱航空機製作所ニ進発シタリ 憂國ノ至情ニ燃ユル彼等ハ我国最重要工場ニ於テ現下ノ戦局ヲ左右スル航空機製作ニ直接参加シ得ルヲ無上ノ光荣トシ粉骨碎身遂ニ職場ニ殫レ本校ノ名譽ヲ金城ノ天地ニ顕揚センコトヲ誓ヒタリ 爾来百有餘日常ニ学徒動員ノ本旨ニ從ヒ規律厳正、勤務精勵夜々トシテ生産増強ニ邁進シ克ク長野県学徒ノ矜持ヲ保チ名聲噴々タリ

然ルニ去ル十二月七日午後一時卅七分突如トシテ襲ヘル一大地變ハ忽焉トシテ佐々木高田吉川ヲ奪ヒ更ニ本郷牧島外五名ノ重軽傷ヲ生ゼシム 翌八日午前一時本郷三菱病院ニ斃レ、続イテ九日午後一時卅分、牧島曩ニ逝キシ四名ノ心中ヲ代表スルカノ如ク毎朝朝礼ニ高唱スル決職綱領我等ノ生産ハ國運ヲ決ス 誓テ生産戦ニ勝ち抜カン ヲ唱へ安ラカニ永遠ノ眠ニ就キタリ

嗚呼痛マシキ哉 痛恨何ゾ堪ヘン 五子何レモ天稟ノ麗質ヲ恵マレ誠実ニシテ眞摯  
匪勉強ヲ好ミテ向上ノ精神ニ富ミ特ニ其ノ純真ナル言行ハ青年学徒ノ範タルニ足り同僚ノ齋シク敬慕セル所ニシテ其ノ前途ヲ大ニ嘱目シアリタルニ條忽トシテ此ノ災厄ニ遭ヒ一片耿々ノ志ヲ抱キテ遂ニ白玉楼中ノ人トナル 梅檀ヲ二葉ニ失フト云ハンカ 或ハ又掌中ノ玉ヲ失フト言ハンカ 嗚呼余此ノ愛児ヲ失ヒテ言フ所ヲ知ラズ 唯々帳然トシテ皇天ヲ望ミ撫然トシテ嘆息之レ久シウスルノミ

然レドモ諸子ハ謹デ命ヲ奉ジ熾烈ナル空襲ヲ予想シツツ敢然トシテ兵器ノ増産ニ努メ遂ニ其ノ言ノ如ク己ガ戰場ニ殫レ戦時下皇國学徒ノ本領ヲ全ウシタリ 豈軍人ノ聖戰ニ參ジ敵彈ニ其ノ命ヲ殞シタルニ異ランヤ

諸子殉職ノ報ニ接シ聞ク所ノ学徒工員ハ何レモ諸子ニ続カンコトヲ願ヒ 憤然トシテ米英撃滅ニ蹶起シツツアリ 此ノ意氣ノ興ル所大東亞戰爭ノ完全ナル勝利ハ期シテ待ツベキノミ 一死君國ニ捧ジテ克ク國民ヲ憤起セシム 諸子ノ死タル正ニ偉大ナリト云フベシ 凡ソ大事ヲ成ス必ズバ幾多ノ試練ヲ嘗ム 天此ノ試練ヲ与ヘテ皇國ヲ赫々タル勝利ニ導カントス 豈天ヲ怨マンヤ 諸子又瞑スベキナリ

諸子ガ遺骸ハガエラルミンノ粉ニマミレタル作業衣ヲ着 破レタル靴ヲ履キ當時ノ姿其儘靈柩ニ収メラレタリ是レ殫レテ後己ム勤勞学徒ノ最後ニ相応シク諸子ノ最モ本懐トスル所ナルベシ

今ヤ戦局愈々苛烈ヲ極メ皇國興廢ノ岐路ニ在リ 我等諸子ノ遺志ヲ奉ジ身命ヲ賭シテ人類ノ仇敵ヲ撃滅シ光輝アル皇國ノ獲得ニ当ラントス 冀クハ英靈永ニ鎮リ給ハンコトヲ 茲ニ恭シク校葬ノ典儀ヲ営ミ篤ク英魂ヲ弔フ

昭和十九年十二月廿四日

長野県飯田中学校長 横内秀雄

### 弔詞

維持昭和十九年十二月廿四日虔ミテ香華ヲ供へ  
故高田厚敏君 故吉川光夫君 故佐々木得一君 故本郷哲夫君 故牧島恒君五君ノ靈前ニ告グ

五君明敏ノ資ヲ享ケ加フルニ研鑽鍊磨茲ニ二年アリ 決戦下皇國学徒タルノ本分ニ則リ日常当校上級生トシテ醇風ノ確立ニ力メ常ニ為ス所憂國ノ至情ニ発セザルハナカリキ殊ニ曩ニ学徒勤勞令ノ下ルヤ爾来ソノ敢闘特ニ著シク去ル八月廿五日三菱重工工業株式會社名古屋航空機製作所ニ出動ノ後ハ一意航空機ノ増産ニ専念シ敢然身ヲ挺シテ事ニ当リソノ清新ノ氣風ト尽忠ノ赤誠ハ克ク学徒勤勞動員ノ本領ヲ發揮シ生産増強ニ寄与セル所多大ナルモノアルト共ニ母校報國隊ヲシテ出動校中ノ白眉ヲラシムルニ与ツテ力アリキ然ルニ凶ラザリヤ 十二月七日突如トシテ中京ヲ襲ヘル地震ハ遂ニ諸君ヲ白玉楼中ニ奪ヒソノ勇姿今ヤ既ニ無シ 痛恨何ゾ之ニ堪ヘン 皇國益々多事ニシテ春秋ニ富ム君等ニ俟ツコト愈々多ク君等又大ニ為スアラントスルノ秋コノ變ニ遭フ 天何ゾ無情ナル君等ノ痛恨察スルニ余リアリ 然リト雖モ生産戦線ニ斃レタル君等ガ功績ハ前線ノ武勲ニ劣ラズ ソノ死ハ洵ニ戰死ニ比スベク今日迄ノ君等ガ敢闘ノ精神ハ活キテ母校報國隊

ノ中ニアリ ソノ名声日ト共ニ益々高ク君等ガ入魂ノ航空機ハソノ忠魂義魄ト共ニ天空ヲ翔リ南溟ニ或ハ北海ニ赫々タル戦果ヲ拳ゲツツアリ以テ瞑スベキカ  
本日茲ニ校葬ノ営マルルニ当リ微衷ヲ述ベテ哀悼ノ意ヲ表ス 願ハクバ在天ノ霊来リ饗ケヨ

昭和十九年十二月廿四日

長野県知事 大坪保雄

### 弔辞

謹ミテ 長野県飯田中学校生徒 故高田厚敏君 故吉川光夫君 故本郷哲夫君 故佐々木得一君 故牧島恒君ノ霊ニ告グ

諸子ハ皇国興亡ノ岐ルル秋ニ際会シ 曩ニ学徒動員令下ルヤ勇躍国家ノ難ニ赴キ 遠ク家郷ヲ離レテ愛知県下ニ三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所道徳工場ニ出動困難ナル環境ノ内ニ在リテ克ク忍苦励精恒ニ学徒タルノ矜持ヲ高ク持シ其ノ多年体得セル教養訓練ト純忠一徹ノ赤誠ヲ傾ケ只管航空兵器増産ノ一途ニ挺身敢闘シ以テ長野県学徒ノ真価ヲ発揚シ戦力増強ニ寄与セシトコロ極メテ大ナリ

然ルニ昭和十九年十二月七日午後一時卅六分突如トシテ震禍ノ襲フトコロトナリ不幸諸子ハ其ノ禍ヲ蒙リ職場ニ殉ス 諸子固ヨリ出動ニ方リテ一身ノ安危ヲ顧ミス献身奉公ノ至誠ニ徹スト雖モ今俄ニ幽明境ヲ異ニス 英魂故山ニ還ルノ日悲風蕭々トシテ渡リ山川旧ニ依リテ在リト雖モ再ヒ諸子ノ英姿ヲ尋ヌルニ由ナキヲ如何セン 痛恨曷ソ堪ヘン 況シテヤ諸子ノ両親ノ悲傷師友ノ悲嘆洵ニ察スルニ余リアリ 茲ニ恭シク深厚ナル弔意ヲ表ス

然リト雖モ諸子ノ殉職ハ第一線ニ於ケル戦死ニ全ク異ラス 正ニ身ヲ以テ皇国獲得ノ大任ニ殉シタリト言フヘシ 惟ニ現下戦局愈々苛烈救国ノ一念ニ燃ユル若キ神風特別攻撃隊員克ク必死必殺ノ体当リヲ以テ驕敵撃摧ニ奮進シツツアルノ秋 諸子ノ後ニ残レル本校学徒又一丸トナリテ諸子ニ続キ諸子ノ遺志ヲ継キ倍々勇奮邁進襲ヒ来ル万難ノ間ニ処シテ毅然トシテ皇国ノ必勝ヲ信シ愈々長野県学徒ノ真面目ヲ發揮シ誓ツテ聖戦完遂ノ礎石タランコトヲ期セントス 諸子ヲ以テ瞑セヨ 而シテ諸子ニ続ク者ノ奮闘ト皇国ノ隆昌トヲ照覽アレ

聊カ所懐ヲ述ヘテ弔詞トス 冀クハ在天ノ魂魄来リ饗ケヨ

昭和十九年十二月廿四日

愛知県知事 吉野信次

謹而学徒動員ノ若椽トナリ国防ノ重責ヲ負ヒ銃後ノ華ト散リシ 佐々木得一君 高田厚敏君 本郷哲夫君 牧島恒君 吉川光夫君 右五柱ノ殉職ヲ哀悼シ恭シク敬弔ノ意ヲ表ス 聖戦ノ国ノシツメノ人柱清キ尊キ若カ英魂ヲヨ

昭和十九年十二月廿四日

衆議院議員 中原謹司

### 弔詞

学徒動員 佐々木得一君 高田厚敏君 本郷哲夫君 牧島恒君 吉川光夫君ノ英霊ニ対シ敬弔ノ意ヲ表ス

昭和十九年十二月廿四日

衆議院議員 吉川亮夫

### 弔詞

謹ミテ故佐々木得一君 故高田厚敏君 故本郷哲夫君 故牧島恒君 故吉川光夫君ノ霊ニ告グ

諸氏ハ去ル八月廿六日学徒通年動員令達セララルヤ勇躍出動信州健児ノ意氣ヲ遺憾ナク發揮シテ日夜航空機増産ニ挺身敢闘中不幸天災ニ遭遇英邁ノ資質ヲ抱キテ逝ク 誠ニ痛惜哀悼ニ堪ヘズ 本日茲ニ葬送ノ儀ニ臨ミ恭シク敬弔ノ意ヲ表シ併セテ五君ノ冥福ヲ祈ル

昭和十九年十二月廿四日

東部第五十部隊長 從五位勲三等 陸軍大佐 中村敏夫

## 弔詞

維時昭和十九年十二月廿四日伊那ノ連山既ニ白雪ヲ戴キテ天寒キ日 曩ニ学徒勤報隊員トシテ名古屋地方ニ勇躍進発日ト共ニ迫リクル苛烈ナル戦局ニ対処シテ国家ノ要請ニ応ヘ軍需工場ニ挺身奮闘セラレタル 故飯田中学校五年生佐々木得一君 故同高田厚敏君 故同本郷哲夫君 故同牧島恒君 故同吉川光夫君ノ五君ガ去ル七日突如トシテ起リタル災害ニ依ツテ惜クモ同地ニ客死ヲ遂ゲラレタルヲ以テ本日飯田中学校職員生徒各位ノ止メ難キ熱涙ヲ以テ校葬執行セラルルノ日ニ当リ下伊那教育會員一同ヲ代表シテ英霊ニ告グ

今ヤ大東亜戦争四年ヲ閲シテ戦局益々緊迫、暴慢ナル敵機ハ皇土ノ上空ニマデモ飛来シテ決戦ノ秋將ニ到レリ 苟クモ皇土ニ生ヲ享クル者国恩ニ報セントシテ起ツノ秋ニアラズシテ何ゾヤ 実ニ皇国ノ前途ハ国民ノ奮起如何ニ関ハルノ時、サキニ全国学徒モ筆ヲ捨テテ国防衛ノ生産ニシタガヒソノ実績着々各地ノ前線ニ現ハレツツアリ

君等マタ名古屋ニ進発セラルルヤ勤勉努力一意国家ノ為ソノ安危ヲ負ヒテ生産ニ従事セラレ衆ニ模範タリ 然ルニ慮ハザリキ同地ヲ襲ヒタル災害ハ忽チニシテ五君ノ尊キ生命ヲ奪フ 天ナルカナ悲涙伝ウテ禁ズル能ハズ 君等皆コレ紅顔ノ兒前途春秋ニ富ムノ身ヲ 今ヤ去ツテ声無シ 日頃君等ノ愛育ニ任シテ倦ムトコロヲ知ラザリシ教職員各位ヲ始メ父兄各位ノ心情ニ思ヒテ致シテ哀悼ノ情切々タルモノアリ 然レドモ今国家安危ノ際軍需生産ニ従ヒテ其途ニ於テ逝去セラレタルハ正ニ第一線ニ於テ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラレタル皇軍勇將ノ死ト異ルナク一死以テ国家ノ急ニ殉セラレタリトイフベシ 父兄各位マタソノ愛兒ノ死ニ接シテ児ガ大君ノ為ニ死セルヲ愛シミテ悲マザリシト聞キ吾等感激ノ極云フトコロヲ知ラズ 吾大和民族ニコノ伝統ト愛國ノ至情アリテこそ皇國ノ前途ニ如何ニ困難加ハリ来ルトモ何ヲカ恐レン 君等ノ死ハ幾多ノ感激ト教訓トヲ後世ニ伝ヘ君等ニ続クモノヲシテ憤起セシメンコト必セリ 猶又伝統古キ飯田中学校ノ歴史ハ君等ノ芳名ヲ幾世ニ伝ヘテ朽チザルベシ

今諸君ノ死ハ惜ミテモアマリ有ルモ亦以テ瞑セラルル所アラン 今日可憐ナル英霊ヲ送ルノ日ニ当リ哀悼ノ情ヲノベテ英霊ニ対シ恭シク弔意ヲ表ス

昭和十九年十二月廿四日

下伊那教育會長正七位勲六等 本堂順一

## 弔辭

茲ニ佐々木得一命高田厚敏命本郷哲夫命牧島恒命吉川光夫命ノ校葬ノ嚴修セラルルニ臨ミ薄奠ヲ供ヘ恭シク衷心敬弔ノ誠ヲ效ス現時戦局ノ危急正ニ皇國興廢ノ岐路ニ在リ「大君ノ辺ニコソ死ナメ省ミハセジ」コレ皇國民ノ念願トスルトコロニシテ又学徒修學ノ根柢ナリ先輩ハ既ニ学徒トシテ出陣セリ命等亦飯田中学校学徒勤勞隊トシテ八月廿六日三菱航空機製作所ニ入所致々トシテ最精銳生産ニ精勵シ以テ内外呼応敵米英撃碎ノ一途ニ邁進セリ然ルニ十二月七日不幸ニシテ災害ニ遭ヒ溢焉トシテ長逝セラル痛恨哀悼何ゾ堪ヘン惟フニ命等学窓ニ在リテハ常ニ学力優秀精神力亦剛正講堂ニ掲ゲラレタル額「精義入神」ト「剛毅」トヲ身ニ体セラレキ工場ニ在リテハ真摯敢闘克ク学徒勤勞ノ範トナレリ然ルニ突如トシテ今ヤ亡シ命等ガ悲憤ノ念ヲシノビ又命等ガ父兄ノ悲痛ノ情ト命等ガ師ト命等ガ学友ノ哀情ノ感ヲ思ヒ洵ニ悲痛哀惜ノ情交々迫リテ殆ド云フベキ辞ヲ知ラズ然リト雖モ命等死ニ直面スルマデ一意敵撃碎ノ意図ニ燃エツツ機械ヲ操縦シツツアリキ精神力ノ発動必ズヤ命等ガ志ハ達成セラレ命等ガ遺業ハ郷党ヲ薫染セン乃チ後進ノ学徒郷党ノ子弟ハ命等ガ善闘ノ精神ヲ繼承シ皇國民学徒トシテノ進発ノ歩々ヲ愈々確平タラシメン命等以瞑スベシ茲ニ哀々切々ノ微意ヲ陳ベテ以テ弔意ヲ表ス

下伊那郡中等学校代表飯田商工学校長從五位 千野紫夫

## 弔辭

秋風落漠トシテ寒鴉枯木ニ啼キ霜葉地ニ埋ミテ軫タ哀愁ヲ覺ユルノ時 維昭和十九年十二月二十四日長野県飯田中学校第五学年殉難五学徒佐々木得一君 高田厚敏君 本郷哲夫君 牧島恒君 吉川光夫君ノ校葬儀執行セラル痛惜哀悼極マリナシ

顧ミルニ今次大東亜戦争ガ皇國自存自衛ノ為メ將又道義日本ヲ盟主トスル道義世界建設ノ理想ニ基ク聖戰ニシテ其古今未曾有ナル軀テ又本邦教育史上空前ノ事実トシテ学徒勤勞令ノ発動ヲ見ルニ至リ友校相共ニ挺身袂ヲ連ネテ名古屋ニ菱重工工場ニ出動シタルハ去ル八月二十六日ナリキ 爾来大江ノ寮第六中隊ニ起居ヲ同シクシ日ネモス夜モスガラ筆硯ヲ工機ニカヘ重要軍需生産ニ戦力増強ノ一途ニ邁進シツツアル学徒ノ純情ハ見ルモノヲシテ肅然襟ヲ正シテ其可憐ナルヲ憐ビ且ツ其頼母シキ若人ノ限りナキ力強サニ感激ノ涙サヘ禁ゼザルヲ覺エシムルモノアリ 宜ナル哉 寮舎及工場内ノ風尚モトミニ

革マリ生産ノ増高亦顯著ナルモノアルヲ見ルハ之レ若キ学徒ノ貢献ニヨル所ニシテ殊ニ今日比島レイテ方面ノ激戦ニ乃至敵機来襲頻繁ナルニ鑑ミテ航空機生産ノ増強コソ焦眉ノ急ニシテ今後益々学徒諸子ニ俟ツ所頗ル大ナルモノアルノ時偶々不慮ノ天災勃発スルニ遭遇シ一瞬ニシテ惜ムベシ飯田有為ノ五君今ヤ亡シ天何ゾ夫レ無情ナル吁

然リト雖勤勞令下勇躍出動ノ時ニ際シテ胸中己ニ決スル所アリシ其心境ノ雄々シサハ正ニ皇軍將兵ノ出陣ニモ相応シク 風蕭々トシテ易水寒ク壯士一度去ツテ又帰ラズ 蹶然起ツテ其ノ任ニ赴キタル其意氣ヤ壯ンナリト云フベク殊ニ現下ノ名古屋ハ敢テ第一戦線ニ異ルナク其間ニ処シテ諸君尽忠報國ノ大義ニ徹シ天災地変空爆亦意トスルナク昼夜兼行米鬼撃滅ノ気魄ニ燃エ精根ヲ尽シテ其職ニ敢闘セラレタル洵ニ感謝感激ニ堪ヘザル所ナリ 然リ而シテ計ラズモ五君不幸意外ノ災害ニ奪ハレテ青雲ノ志伸ブルニ由ナク咲ク花ノ春ヲモ待タデ無情迅速一陣ノ嵐ニ散リユキシハ痛恨ノ極ミトスル所ナルモ諸君固ヨリ忠肝義膽ノ士身ヲ鋒鏑ノ間ニ馳驅シテ壮烈鬼神ヲ泣カシムルノ勇士ニモ比スベク諸士ガ芳勲ハ長ク青史ニ伝ヘテ儒夫ヲシテ起タシムルモノアルベク静カニ眠ル無言帰還ハ故山ニ待チ佗ノ師父ノ御胸ニ又懐シノ校友ニ抱カレテ痛惜哀悼切々ノ情ニ迎ヘラレ茲ニ校葬ヲ以テ遇セラル又以テ瞑スベキナリ 吾等僚友又一層奮激相享ケテ必勝完遂必ズヤ諸君ガ雄志ヲシテ空シカラシメザルベシ

希クハ殉職五君ノ英魂永ヘニ安ラケク神州護持ニ神鎮リマサンコトヲ 茲ニ県下中学校ヲ代表シ謹而哀悼ノ誠ヲ捧グ 夫レ希クハ来リ饗ケヨ

昭和十九年十二月二十四日

長野県中学校代表諏訪中学校長 吉沢俊一

## 弔詞

維時昭和十九年十二月二十四日長野県飯田中学校学徒 故高田厚敏君 故吉川光夫君 故佐々木得一君 故本郷哲夫君 故牧島恒君ノ校葬ノ営マルルニ当リ謹ンデ在天ノ英靈ニ告グ

諸子ハ嚮ニ勤労働員学徒トシテ刻下緊急兵器タル航空機ノ生産ノタメ遠ク郷間ヲ後ニ三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所ニ来所 爾来学徒トシテノ高度ノ教養ト精緻ナル訓練トヲ日常ノ行動ニ遺憾ナク発揚シ日夜孜々トシテ作業ニ精進シ聊モ倦ムコト無クソノ重厚ナル人格ト相俊ツテ一般ノ敬仰ヲ一身ニ聚メ皇國産業戦士ノ儀表トシテ衆ニ垂範シ居リシガ偶々十二月七日十三時三十七分名古屋地方ヲ襲ヒタル震禍ニ遭ヒテ濫焉トシテ逝ク 嗚呼邦家ノ前途益々容易ナラザルノ秋俄ニ諸子ノ如キ優良学徒ヲ失フ 皇國ノ為痛恨之ニ過ギザルナリ 更ニ御遺族ノ心情ノ上ニ想ヒ到レバ悵然トシテ述ブル辞ナ

シ 然リト雖モ時局下勤労働員学徒トシテ作業ニ挺身中職ニ身ヲ殉ズルハ恰モ軍人ノ戦場ニ於ケル壮烈ナル戦死ニ異ナラズ 我等ハ諸子ノ志ヲ継ギ敵撃滅ノ増産ヲ達成シ諸子ノ靈ヲ安ンゼンコトヲ誓フ

本日茲ニ葬送ノ儀ニ臨ミ諸子ノ英魂永ヘニ安ラカナランコトヲ祈リ聊カ蕪辞ヲ述ベテ弔詞トナス

昭和十九年十二月二十四日

三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所長 岡野保次郎

## 弔辞

三菱重工業航空機製作所長野勤労働員学徒ヲ代表シテ 故飯田中学校生徒吉川光夫 佐々木得一 高田厚敏 本郷哲夫 牧島恒五君ノ御靈前ニ申シ上ゲマス

五君ハ何レ劣ラヌ国家有為ノ人材ニシテ殊ニ体力スグレ各自ノ有スル力量ハ当ニ帝國軍人幹部トシテ将来ヲ嚮望サレテイタノデアリマス 又平素ノ真剣サニ至リテハ工場皆勤ノ目覚シキ働キ振りニシテ私達ノ心カラ尊敬シ慕フ可キ人々デアリマシタ 然ルニ不幸ニシテ不慮ノ災禍ニ遭ヒテ一命ヲ失シタル事ハ誠イ惜ミテモ余リアルモノガアリマス 木枯蕭々ト吹キスサビ四辺ハ一時無気味ナ静ケサヲ漲セテイマシタ 計ラザリキ十二月七日突如トシテ襲ヒ来ル激震ニ哀レ飯田中学ノ同輩ハ若キ生命ヲ奪ハレテシマツタノデス ア、悲シイカナ 如何ニ天災トハ云ヘ何トソノ仕業ノ恨メシイ事カ 私達ハ唯アキラメテモ絶対アキラメノツクモノデハアリマセン 激震一過帰寮後互ノ無事ヲ喜ビ合ヒ漸ク安堵ノ胸ヲ撫デ卸シタ途端コノ悲報ヲ耳ニシタノデアリマス 唯一人トシテ悲哀ノ情ニクレヌ者ガアリマセウ 寂トシテ声ナシ 唯々必ヤ生命ヲ支持出来ル様念願シテ止マナカツタノ二天ハ再ビ我ガ同輩ヲ黄泉ノ旅ヨリ戻サナカツタノデアリマス今ハ幾ラ呼ベドモ応ハナイ 肉体ハタトヒ滅ビテモ魂ハ躍如トシテ職場ニ生キ永劫ニ我等ヲ鼓舞激励シテ下サルデセウ今ハ私達ハ同輩ノ英靈ニ対シ謹ミテ哀悼ノ念ヲ捧ゲルノミデアリマス 英靈ヨ願クバ安ラカナ眠リニ就カレン事ヲ 返ス返スモ私達ノ身代リニナツタ事ヲ申シテ居リマス 我等ノ英靈ニ報イル道ハ唯一ツ 一意専心職場ニ敢闘スルノミデアリマス

顧レバ八月入所以来ラ朝ナク夕ナク起居ヲ共ニシ 或ハ実習場ニ於ケル作業ニ將又寮ノ内務生活ニ互ニ励マシ合ツタ当時ガマザマザト眼ニ浮ンデ来ルノデアリマス 共ニ苦菜ヲ分チ合ヒ又笑ヲ共ニシ戦友ノ如キ間柄ニアツタ同輩ガ急ニ側カラ失セタ事ハ全く私達ノ大打撃デアリ最モ悲痛ナ思ヒデアリマス 何カ事アルニツケ思ヒ出サレルノハ唯在リシ

日ノ同輩ノ倂デアリ私達ヲシテ悲哀ノ涙ヲ絞ラセルバカリデアリマス 馳テ同輩ノ靈魂ハ昇天シムクロハ白木ノ箱ニ寂シクモ収メラレ私達ニ在寮生ニ最後ノ別レヲ告ゲタノデアリマス 仏前ニ黙坐シ懇ニ焼香ヲシ一心ニ祈リヲ捧ゲ暫シウナダレテ止マズ 線香ノ香ユカシキ中ニ灯明ト煙ニ抱擁サレタ靈ヲ拝シタ刹那ニ感無量措クトコロヲ知ラズ 天災ハ人ヲ致ス処ニアラズ 併シ出来タラ最後迄救ツテヤリタカツタノデアリマス 私達ハ靈魂ノ御加護ニ依リ愈々職場ニ真摯敢闘ヲ続ケ一刻モ早ク英靈ヲ喜バシメネバナラヌノ感ヒシヒシト身ニ迫リ胸ノ突カレル思ヒガシマシタ 幾ラ考ヘテモ恨メシイノハ天ノ仕業ナノデス 天ハ国家ノ至宝トモ云フベキ有為ノ若キ青年学徒ヲ無ニシテヨイデセウカ 併シ同輩ノ靈ハ最後迄職場ヲ死守シテ殉ジタ事ヲコヨナク喜ビ無念無想ノ境地ニ入ツテ静々ト昇天シタ事ヲ固ク信ジマス コレコノ決戦学徒ノ本分ヲ尽シタ最高ノモノト云ヘマセウ 私達ハコノ生キタ教訓ヲ固ク身ニ体シ倒レル迄奮闘スル決心デス ドウゾ安心シテ眠ツテ下サイ ココニ至ラヌ言ヲ連ネテ哀悼ノ真心ヲ捧ゲ奉リマス

昭和十九年十二月二十四日

三菱航空機製作所大江寮長野県学徒代表 長野県諏訪中学校生徒 宮坂浩一郎

### 弔詞

故飯田中学校生徒  
高田厚敏君 本郷哲夫君 佐々木得一君 牧島恒君 吉川光夫君ノ各御靈ノ御前ニ謹而申上ゲマス

此ノ度不慮ノ災禍ニヨツテ皆サン方ガ惜シクモ遂ニ若キ身ヲ以テ生産戦ニ殉セラレタルトハコ返ス返スモ悼シキ限リデアリマス 想ヘバ今年八月皆サンハ懐シキ母校ヲ去ツテ米英撃滅ヲ心ニ深く誓ヒ学徒勤労働員ノ重責ヲ果スべく勇躍シテ出発サレタノデアリマス 爾来茲ニ二百余日一切ヲ拳ゲテ只一途生産ノ増強ニ日夜敢闘シ戦時学徒ノ本分ヲ遺憾ナク發揮セラレタノデアリマス 殊ニハフイリツピン、レイテノ戦局急ヲ告グルヤ遠ク想ヒテ特別攻撃隊ノ勇士ノ上ニ馳セテ吾劣ラジト心血ヲ注イデ奮闘サレテ居タノデアリマスガ 思ハザリキ突如災禍ニ遭ヒテ尊クモ生産ノ犠牲トナラントハ 皆サンモ定メシ万斛ノ恨ミヲ吞ンデ斃レタコトト存ジマス シカシ皆サン方ノ尊キ死ハ更ニ吾々ニ憤激ノ血ヲ湧キ立タセテ居リマス 吾等ハ断ジテ皆サンノ仇ヲ討ツテ墓前ニ報告申シ上ゲル覚悟デアリマス 皆サン方ノ盟友ハ皆サンノ屍ヲ乗り超エテ突進シツツアリマス 敵ノ爆撃下ニモ敢然戦ヒ続ケテ居リマス 戦局ハ益々苛烈デアリマス 而シテ尚未ダ幾多ノ犠牲ヲ要求シテ居リマス 今ヤ全国数百万ノ勤労学徒ハ益々其ノ決意ヲ堅クシ如何ナ

ル犠牲ノ前ニモ愈々闘魂ヲ發揮シテ驕敵必滅ヲ期シテ居リマス 何卒此ノ点御安心ヲ願ヒタイト思ヒマス 皆サンノ生涯ハマコトニ短イ生涯デアリマシタ 又皆サンヲ失ツタ国家ノ損失ハ甚ダ大クアリマシタ シカシ生産戦ニ惜シクモ散ツタ若桜コソハ永ヘニ母校ノ庭ニ映ユルコトデアリマセウ 願クハ皆サン本日送葬ノ盛儀ヲ受ケテ安ラケク故郷ノ山ニ眠ツテ下サイ

昭和十九年十二月二十四日

飯田国民勤労働員署長 佐々木政美

### 弔辞

本日茲ニ長野県飯田中学校葬ニ臨ミ謹ミテ職場ニ殉ジタル勤労働員 牧島恒君 吉川光夫君 高田厚敏君 本郷哲夫君 佐々木得一君ノ英靈ニ白ス

諸君ハ戦局愈々苛烈ヲ加フルノ秋学徒勤労働員ノ命下ルヤ去ル八月学友ト共ニ若キ敢闘ノ意氣ニ燃エ名古屋三菱航空機株式会社道徳工場ノ増産戦列ニ加ハリ爾来精勵恪勤克ク学徒ノ本分ヲ尽シ崇高ナル闘魂ヲ傾注シテ航空機ノ増産ニ挺身優秀ナル業績ヲ挙げツツアリタルニ突如十二月七日不測ノ震災ニ遭ヒ職場ニ殞ル 何タル天命ゾヤ 諸君ハ職場ニ殉ジ勤労働員ノ本分ヲ尽シタリトハ言ヘ大東亜戦争完遂ノ為国家ガ諸君ノ将来ニ期待スルトコロ極メテ多カリシニ寔ニ惜ミテモ余アリ 然レ共死生命アリ 敵ノ侵攻日ニ繁劇ヲ加ヘ皇國ノ興亡今日ニ繫ル秋諸君ガ遺志ト闘魂トハ必ズヤ全国学徒之ヲ承ケ継ギ増産戦線ニ將又馳テハ神風特別攻撃隊トシテ体当リノ精神ヲ顕現シ諸君ノ宿望ヲ全ウシ驕敵米英ヲ撃摧シ以テ此ノ雄渾ナル大東亜線ヲ勝ち抜クナラン 諸君亦以テ永ヘニ安ラケク瞑セラレヨ

昭和十九年十二月二十四日

飯田警察署長 地方警視正八位 高橋虎三郎

### 弔詞

謹ンデ曩ニ殉職セラレタル 故佐々木得一君 高田厚敏君 本郷哲夫君 牧島恒君 吉川光夫君ノ靈ニ告グ

若キ殉職者諸君 諸君ハ中学校生徒トシテ学窓ニ在リシガ皇國興亡ノ大東亜戦争下國家ノ要請ニ応ヘテ去ル八月二十五日飯田中学校学徒勤労働報國隊員トシテ勇躍ニ三菱航空会社名古屋工場ニ入所セラル 爾来皆々トシテ兵器増産ニ専念セラレ日月ヲ重ネズシテ立

派ナル工員トナリ早晨ヨリ夕景ニ至ルマデ一心不乱精魂ヲ尽シ学徒ナクシテ増産ナシト迄賞讃セラル 入所以来二ヶ月後ノ十月二十五日同窓会ヨリノ慰問トシテ親シク諸君ノ勤労現場ヲ視察セシニ 旋盤ニ或ハ火焰作業ニ或ハ組立ニ各々ソノ長所ヲ發揮セラレ一箇ノ鉦モ疎カニセズ醜敵米英撃滅ノ意氣ニ燃エソノ心構ヤ必死 ソノ姿ヤ壯絶 実ニ偉大ナル感ニ撃タレ感涙ニ咽ビ身ノ縮ルヲ覺エタリシ 終日長時間ノ勤勞ヲ終リ薄暮工場前ニ集合シ挨拶ノ後嘸咄タルラツパノ響ヲ先頭ニ察ニ帰ル 疲レタリト雖モソノ意氣ヤ極メテ盛シナルモノアリシ ソノ日偶々レイテ島沖ノ大戦果ノ発表アリ 諸君ノ喜ビ響フルモノナク 自ラ身骨ヲ碎キテ造リ上ゲタル兵器ニ物ヲ謂ハセタル大戦果ノ事ナレバ会心ノ笑ヲ湛ヘ増産ノ意欲愈々揚リ意氣天ヲ衝クノ慨アリシ 翌早朝旭日昇天ノ意氣ニ燃エ歩武堂々工場ニ進発セラルルヲ見送りシガ爾後ノ増産能率ノ向上夥シキモノ有リシヲ疑ハズ 然ルニ僅カニ二ヶ月ニ足ラザル十二月七日凶ラザリキ 震災ノ禍ニヨリ瞬時ニシテ貴キ身命ヲ亡フ 何タル悲惨事ゾヤ 天災トハ謂ヘ時モ時何タル痛恨事ナリシゾ 悲報ニ耳打タレタル学校父兄並ビニ関係者一同ノ驚愕如何バカリナリシヤ 將來有為ノ青年学徒ヲ失ヒ非常決戦下国家ノ損失ハ言ハズモガナ 父兄御遺族ノ御心中察スルニ余リ有リ 然リト雖モ諸君ノ靈ハ忽焉トシテ昇天セラレ国家ノ護リトナリ又同僚後輩ノ激励トナリ或ハ又天翔リテ南方戦線ニ無言ノ突撃ヲ敢行セラルル事モヤアラシ 本日茲ニ校葬ノ式ヲ挙ゲ諸君ノ靈ヲ弔フニ当リ飯田中学校同窓会ヲ代表シ 在リシ日ヲ追想シ以テ弔辞トナス

昭和十九年十二月二十四日

飯田中学校同窓会幹事長 松沢茂雄

## 弔詞

不慮ノ災禍ニ遭ヒ不幸殉職セラレタ級友 佐々木高田本郷牧島吉川五君ノ靈前ニ心カラナル弔意ヲ捧ゲマス

忘レモセヌ十二月七日午後ノ作業ニ取リカカツテ間モナクデシタ 丁度機体ノ胴下ノビスヲ固メテイルト突然機体ガ揺レ出シタノデドウシタノダラウト這ヒ出ストモウ天井ガ廻リ足モトガグラツイテキマシタ 地震ダト直感シタ瞬間無我夢中デ我々ハ馳出シ狭イ入口ヘ殺到スル人波ニ探マレテイマシタ 漸ク屋外ニ押出サレタト思フ頃ブリ向イタ剎那 我々ノイタ組立工場ハ轟然タル音響ト共ニ無慘ニモ倒壊シタノデアリマス 暫クシテ我ニ返ツタ時 本郷牧島佐々木三君ハ重傷ヲ負ウテ病院ニ運バレ高田吉川二君ハ行方不明ニナツテイルコトヲ知り我々ハ自失茫然暫シ為ヌ所ヲ知ラヌ有様デアリマシタ ソシテ後カラ聞クト折角イチハヤク搬出サレタ佐々木君ハアハレ即死セラレタノデアリ

本郷君ハ翌八日午前零時半 牧島君ハ九日午後一時共ニ三菱病院ニ於テ悲クモ不帰ノ客トナラレ 高田吉川二君ハ精魂コメテ組立テタ飛行機ト共ニ崩壊シタ己ガ職場ニ汗ト埃ニマミレタ作業衣ノママ悲壯ニモ若ク貴キ華ト散リ逝カレタノデアリマシタ

ソレハ正シク現実ニ相異ナイノデアリマスガ我々ニハ全ク一場ノ悪夢トシカドウシテモ思ハレマセン 殊ニアノ日作業開始ノ電鈴デ夫々ノ職場ニ嬉々トシテ吸ヒ込マレル様ニ入ツテ行ツタ君等ノ勇姿ハ今モ我々ノ眼底ニハツキリ焼付イテイマス ソシテアレカラ半時間ノ後ニアノ悲劇ガ起コルト誰アツテ予想シタデアリマセウ 無情ナル運命ノ仕業ニ悵然トシテ君等ヲ偲ブノミデアリマス

思ヘバ過グル八月二十六日決戦時局下栄アル学徒動員ノ誇モ高ラカニ母校ノ名譽ト郷土ノ興望トヲ裏切ルマイト固イ決意ノ下ニ懷シキ故郷ヲ出デテヨリ三ヶ月半 我々ハ学徒ノ矜持ト熱情ト頑張りトヲ以テ互ニ励シ合ヒ助け合ヒツツ来ル日ヲ職場ニ敢闘シテ参リマシタ然ルニ計ラズモ突如トシテ震禍ニ見舞ハレ君等五名ヲ我々ノ中ヨリ奪ヒ去ラレタ悲惨事ニハ悲愁痛憤ノ極全ク言フベキ言葉ヲ知ラナイノデアリマス サハアレ君等ノ誠実真摯ナル作業振ハ終始我々級友ノ模範デアリ常ニ我々ニ生氣ト光トヲ与ヘテクレマシタ 蓋シ日々ハンマーヲ握リ鑪ヲ取ツテ戦ヒ続ケタ己ガ職場生産ノ第一線ニ惜クモ斃レタ君等コソソノ彊忍ト責任感ト壯烈トニ於テ正ニ第一線將兵ノ偉烈ニ勝ルトモ劣ルトコロハアリマセン 誠ニ青年学徒ノ本懐之ニ過グルモノナシトイフベキデアリマセウ 残サレタ我々ハ君等五名ノ靈ニ心カラナル合掌ヲ捧ゲソノ願福ヲ祈ルト共ニ戦局愈々苛烈ヲ加フルノ秋更ニ一刻デモ早く一機デモ多クノ第一線ノ要望ニ応ヘ益々翼ノ生産ニ挺身センコトヲ深く深ク心二期スル次第デアリマス 而シテコレコソ君等ヘノ最大ノ供養デアルト信ズルモノデアリマス

昭和十九年十二月二十四日

長野県飯田中学校第五年年生徒代表 吉沢隆夫

其他弔辞、弔電等ヲ寄セラレタル学校、諸団体芳名

(順序不同)

諸団体其他

中等学校

三菱出動中等学校代表  
松本第二中学校長

千野柴夫殿  
濱本勝治郎殿

伊那高等女学校長  
木曾高等女学校長

淀川茂重殿  
佐藤信一殿

飯田市翼賛壮年団長  
日本赤十字社殿

飯田市會議長  
下伊那地方事務署長

岡田竹男殿  
戸谷信美殿

岡谷中学校長  
須坂中学校長

窪田茂喜殿  
中沢睦次郎殿

松本高等女学校  
岡谷工業学校長

岩本義恭殿  
牛山邦博殿

飯田區裁判所監督判事  
飯田區裁判所監督判事

飯田區裁判所檢事局長  
飯田區稅務署長

武田正二殿  
名村楠男殿

大町中学校長  
木曾中学校長

宮島染江殿  
河西健兒殿

長野商業学校長  
丸子農商学校長

小川省吾殿  
松島喜代太郎殿

飯田區稅務支所長  
飯田郵便局長

伏島英二殿  
伊藤祐一殿

飯田刑務支所長  
飯田測候所長

神野十九二殿  
酒井虎之助殿

岡谷高等女学校長  
飯田高等女学校長

千葉正志殿  
小山茂市殿

長野商業学校長  
伊那商業学校報國隊長

小本曾政一殿  
羽場金十郎殿

飯田地方帝室林野局飯田出張所長  
飯田保線區長

飯田區農事試驗場下伊那分場長  
飯田區農事試驗場飯田支場長

里見一殿  
山下房司殿

岩村田高等女学校長  
岩崎長思殿

岩崎長思殿

丸那商會  
飯田保線區長

高坂応平殿  
野島喜一殿

飯田保線區長  
飯田地方帝室林野局飯田出張所長

飯田測候所長  
飯田區農事試驗場飯田支場長

中島茂司殿  
輪明政雄殿

青年、国民学校

下条青年学校長  
木沢国民学校長  
伊賀良国民学校長  
上郷国民学校長

塩沢匡一殿  
中川元三殿  
松島八郎殿  
原太一殿

上村国民学校長  
三穂国民学校長  
智里村西国民学校長  
千代国民学校長

田中重穂殿  
宮澤三二殿  
木村八弥殿

長野縣飯田土木出張所  
長野縣蠶業試驗場飯田支場長

市町村

飯田市長  
泰阜村長  
平谷村長  
浪合村長  
上郷村長  
山吹村長  
河野村長  
智里村長  
生田村長  
清内路村長殿

遠山方景殿  
吉沢新助殿  
村松藤右衛門殿  
河原新吾殿  
原六雄殿  
林小六殿  
胡桃沢盛殿  
原尹殿  
池上明殿

座光寺村長  
山本村長  
市田村長  
木下条村長  
平岡村長  
和田組合村長  
富草村長  
須坂町長  
下伊那郡町村會長

榊原文四郎殿  
浜島潮三殿  
関川一実殿  
金田理玖殿  
花田清殿  
遠山恭平殿  
村山実徳殿  
田中邦治殿  
代田市郎殿

諏訪中学校長  
大町中学校長  
上田中学校長  
松本中学校長  
岩村田中学校長  
長野県女子専門学校長  
諏訪高等女学校長  
上田中学報國隊長殿  
望月中学校長殿  
中野農商学校長殿

学校長宛悔状

飯田市長  
泰阜村長  
平谷村長  
浪合村長  
上郷村長  
山吹村長  
河野村長  
智里村長  
生田村長  
清内路村長殿

遠山方景殿  
吉沢新助殿  
村松藤右衛門殿  
河原新吾殿  
原六雄殿  
林小六殿  
胡桃沢盛殿  
原尹殿  
池上明殿

吉沢俊一殿  
宮島染江殿  
上田義雄殿  
小西謙殿  
小林直衛殿  
佐藤貞治殿  
大森栄殿

上田高等女学校長  
篠ノ井高等女学校長  
上伊那農学校長  
長野商業学校長  
松代商業学校長  
木沢国民学校長  
衆議院議員  
根羽国民学校長殿  
片山均殿

小町谷常是殿  
北原寛殿  
村上明彦殿  
松島喜代太郎殿  
久保田文雄殿  
中川元三殿  
小坂茂雄殿

## 吉川光夫君を偲びて

昭和十九年十二月七日突如起つた震災に君は幽冥界を異にせられた、思へば学徒勲員令が下されて以来三ヶ月余共に苦しみ共に楽しんで来た君であつたのに、天災とは言へまことに哀悼に堪へぬものがある。

思ふ、我々が幼き胸に燃ゆる希望を抱いて飯田中学校受験を競つたあの日、私の後に、にこ／＼した人の良ささうな受験生が居つた。絶えず顔に浮んでゐる微笑には言い知れぬ親しさ、懐しさを感じさせられたが、実はそれが君であつた。合格の報に接した昭和十五年の四月五日晴の入学式に参列し、そこに再び君の姿を見出して共に成功を喜び合つたものであつた。そして一年の時は君と同級であり、三年の時も五年の時も亦君とクラスを同じくしたが、然し私が殊に親しく君と交り出したのは君が私の家に近い中央通の兄さんの家に下宿されてからであつた。

君は温順そのものであつた。常に童顔に浮ぶ微笑は、そのまゝ、君の心の現れであつた。温順と言つても諸々唯々として好んで他人の意志に従ふ輩ではなかつた。群衆に雷同する無性格な輩ではなかつた。血氣に逸つて時に不正を敢てした我々を微笑で制したのは君であつた。制する迄とは行かなくとも、敢て悪に染まなかつたのは確かに君であつた。それだけに君の微笑に接すると浮世の塵に染まぬ清らかな氣高いものを感じた。亦君は趣味を音楽に求め、音楽に専念された。私は君の家の前を通り過ぎる時、読書の声に非ざれば必ずギターの音を耳にした。又アコーデオンの音を耳にした。

我々に勲員令が下つて、愈々明後日は出発すると言ふ八月二十四日、私達は君を誘つて、月夜の松川に夜更迄語り合つた。そして種々の雑談中に君は「音楽家にならうか。」と言つて微笑してゐた。そして。私達の求めに応じて遠慮勝ちにギターの独奏をやつてくれた。冴えた月夜の河原で、しばし君の妙技に我を忘れたのも今は懐しい悲しい思ひ出である。

亦君は真のスポーツマンでもあつた。木枯の吹く日も寒風肌を刺す日も、放課後の校庭で孜々として運動に入りひたつてゐたのは君であつた。そして四年の秋、晴れて飯田中学校代表選手として県体育大会に出場し、見事優勝獲得の栄を挙げられた。斯く音楽にスポーツに君は非凡な天分を恵れた人であつた。それでいて敢て驕らず、あくまで謙虚斯道に精進せられたのである。君は実に美しい心の持主であつた。作為のない極めて自然な温い人であつた。かく君は多感な青年少時代を一意専心スポーツに音楽に没入し喜びにひたり得た幸福な人であつた。然るに十二月七日、突如襲つた震災に不幸急逝せられた。運命とは言へ惜みていふ言葉もなく、真に哀悼に堪へぬものがある。

然し、不慮の災害とは言へ君は職場に敢斗し、職場に斃られた。この大東亜戦下君は決戦の職場に正しく玉碎されたのである。航空機増産を叫びつつ、神州護持の美はしき人柱となられたのだ。

願ふに君も本懐であつたであらう。謹んで冥福を祈る。

(新井淳逸)

○  
ついで此の間と思つてゐる中にもう一ヶ月も経つたしまつたが、何時迄も忘れることのない出来事、今思ひ出しても身震ひのする大地震。吉川君は遂にあの災禍の尊き犠牲として、自分の手にかけた飛行機を守りつゝ、此の世を去られた。実に残念なことであつた。

あの日昼休みに君は私と肩を並べて、いつもの如く日向ぼっこをしつゝ、話し合つて愉快に過し、互に午後の増産を誓つて職場に向つたのであつたが、それから三十分の後にあんなことにならうとは神ならぬ身の夢想さへもしなかつたことである。

音楽の好きであつた君は常に吾々を喜ばせてくれたものであつた。それから他人が遊んでゐる暇に勅諭の謹書をしてゐたのも君であつた。又入寮以来一日も欠かさず日記を付けていたのも君であつた。かく君は明朗な勤勉なそして又辛抱強い人であつた。殊に君の運動に勝れてゐたことは知らぬ者はないであらう。

いろ／＼思出深いこともあるが、此の間まで起居を共にしてゐた君と別れたことは真に哀惜に堪へないものがある。といつていつまでも悲しんでばかりいても致し方ないが、吉川君に應へる道は只一つ。それは増産に生命を抛つて挺身することの外にはないのである。

吉川君よ、天上から吾々級友の敢闘振を見てくれ給へ。必ず吾々は頑張り抜く。

(宮島哲夫)

## 本郷哲夫君を憶ふ

○

十二月七日昼過ぎ突如起つた地震に工場内は一時紛乱の極に達した。右往左往する人々、倒壊した建物より捲き上る濛々たる塵埃、自分等は全く茫然としてなすすべを知

らなかつた。次々と担架に乗せられて吾々の前を過ぎて行く重傷者、途端はつと我に返つた。「さうだ人員を点呼しなれば。」約十分の後飯中生を広場に集めることが出来た。「いない。」十名許りの者がいない。その中には病院へ行つたとわかつてはいるもの、全然行方の知れないもの、段々調べて行く中に、わが本郷君も頭部に負傷して病院へ入つてゐること、入院ときいて一先づ安心はしたが行方不明のものが気懸りでならなかつた。以後自分は全然本郷君の容態について聞く暇もなく、状況連絡のためその日の夜行で学校へ帰り、そして翌日本郷君遂に死去の報を受けたのである。

思へば惜しい愉快な友であつた。自分との個人的な交渉は五年になつてからの短い間であつたが、男らしいその一風変つた性質は深く自分に共感を起させるものであつた。通校当時、掛靴を尻の辺迄下げて大手を振つて歩く姿、又英語の時間、短語の意味をこまかい所まで調べて来て、短語と言へば君の独り天下であつたこと、ばんからに近い性質の中にも、辛抱強く、もり／＼と勉強を続ける君の性格、又会の時などよく出席し、大声を張り上げて、歌をうたつたり、演説をしたりするはき／＼した動作、夏の午後の校庭でグライダーの桿を握つて操縦の訓練に余念のなかつた君。或は元来不得手の水泳にプールの中で当惑している君の顔等々思ひ出せばはてしがたない。

動員後の君は工場の人隔で持前の性質を發揮して黙々と作業に挺身していたが、思はぬ災害に期待すべきその将来は永遠に封じられてしまつた。何たる悲惨事何たる遺恨事であらう。併し君の死は任務を全うして斃れた将兵の戦死と何ら異なる所はなかつた。

君の英魂は永久に飛行機増産の上にあつて永く皇国の隆昌を守つて呉れるであらう。後に残つた吾々は君の烈々たる遺志を継承して、勝つ最後の日迄滅敵に燃えさかる君の魂を運ぶ飛行機を、作つて作つて作り抜く覚悟である。(横内滯)

○

十二月七日十三時三十七分突如起つた震災の為君は遂に職場に倒れられた。あゝ悲しい哉。君の元氣瀟刺たる姿は今も亡き骸と化してしまつたとは。全く夢の様な気がする。思へば君と幼稚園に相知つて以来君の元氣な男らしい姿を見てひそかに尊敬もし頼りにもしていた。君は特に武道が得意でそのめざましい活躍は今でも彷彿と眼に浮んで来る程である。又教場に於ける熱心な態度には自分等は何時ともよい影響を受けた。昨年八月待望していた勤労働員令が下り我々飯中生は勇躍して生産戦に参加して以来三箇月有余の間大江寮に起居を共にし、軍歌を歌ひつゝ共に通勤した。又職場に於ては学徒の本分を守り、あらん限の力をしぼつて輝かしい航空機製作に精進し、道徳工場に飯田中学校有りとの校名を輝かしたのである。あの台湾沖海戦比島沖海戦の大戦果が次々とあがりそれが毎日の様に拡声器によつて報ぜられた時は感激の極に達し自分達の造つた飛

行機も活躍したのだと互に肩をたゞき合つて歓声を上げたものであつた。

かく不自由ながらも楽しい寮生活を続けてきたが、あの不慮の災禍の為実に悲しい事になつてしまつた。

しかし本郷君も飛行機生産の第一線の華と散られたことは思ふに本懐であつたであらう。

我々は本郷君の冥福を祈りつゝ、益々生産戦に励み君の英魂を弔はう。

(五十君友己)

## 牧島恒君を偲んで

○

十二月七日のうそ寒い昼すぎであつた。大地震襲来に驚いた我々は夢中になつて外へ逃げ出したが暫くの間と言ふものはじつと立つてゐる事さへ出来ず今にもよろめき倒れやうとする有様だつた。眼を工場に転ずれば濛々たる砂煙の中に己に倒壊したものとさへある。あまりの急激な地震に逃げ出す事さへ出来ず遂に煉瓦の下敷きとなつた人ありと聞く。牧島君も不幸にしてこの人々の仲間の一人となり不慮重傷だとの報せであつたが一時間余にして漸く救出された。しかし既に両脚部を骨折しているため救護所で応急手当を受けた後三菱本院に移されたのであるが、二日後遂に十八年の若い命を震禍に奪はれてしまつたのである。あゝ何たる不運な日であつたらう。何たる冷酷な天の仕業であらう。我々は良き友を失ひ悲憤の情に堪へない。

顧みれば昨年八月父母の膝下を離れて勇躍生産戦に参加して以来三ヶ月余、工場に、寮内生活に日々起居苦楽を共にして来た君が今は亡き人の数に入つてしまつたとは全く夢の様であり限りなく淋しいのである。君の面影を偲べば君の温順にして無口な鷹揚な性格が自ら思ひ浮べられる。授業中もさうであつたが工場へ来ても君のこの穏かな性格は我々周囲の者を温かく包んで我々の心を静かに和げてくれたのであつた。蓋し前途有為の君が不帰の客となつたことはひとり君自身のみでなく国家の為に不幸な損失であるが、現在の戦局は厳しくもかけかへない将来性ある人々の犠牲をも要求しているのである。それ程現実には緊迫性を帯びてきたのである。この時日本の運命を左右する航空機生産の第一線に散つた君こそは真に勤労学徒の華であり君としても悔なき本懐であつたことを思ふ。

我々は君を奪はれた悲しみの中にも雄々しく立ち起り君の遺志をついで翼の生産に邁

進をつづけよう。君を願はくは山高く水清き故山に帰り安らかなる眠りにつかれよ。

(長谷川尚之)

牧島君、不慮の災禍とはいへ僕は活躍の舞台に出ようとするとするこれからといふ若い君を失つたことを同級生として深く悲しむ。

思へば我々が学徒動員令を受けて勇躍航空機生産陣に馳せ参じてより茲に三ヶ月半、後三ヶ月で再び懐しの郷土に意気揚々揃つて凱旋しようと思つていたのに何たる運命か、悲しくも遽かに君が声なき凱旋をしようとは。然し君よ、我々は祖国興亡の岐路に立つや敢然学業を抛つて航空機生産の第一線に馳せ参じたものである。皇国学徒としての最高の榮譽を担うたのであつた。我々の眼前には唯輝く祖国の姿あるのみである。我々がこの国に於て生き此の国のために死するといふ事は我々が十八年の歳月を閲する間に睿智として既に身につけて来たところである。護国のために一途心に勇み立つ若き人々を仰ぎみると我々は今迄の学問が真に生かされたことを限りなく喜ぶ。御国のためには何か惜しからむとは我等学徒の真情ではなからうか。この時生産陣への学徒進軍の戦列に刀折れ矢尽きてあはれ散華して行つた君、私は涙をふるつて叫ぶ、「君は祖国のために尊く散つた光榮ある戦士だ」と。我々は君の冥福を心にこめて祈りながら誓つて君の遺志を空しくはしないであらう

(大原昭夫)

## 級友佐々木得一君

十二月七日突如として襲ひ来つた震禍に囚らずも君は遂に黄泉の客となられた。今かく筆を取り走馬灯の如く我が眼前に浮びくる在りし日の君が姿を憶ふ。

昭和十五年春色正に酣の時我々はあの高松台地の学舎に燃ゆる希望に満ち意気揚々と入学したのである。爾来君は温厚篤実の故を以て「得さ」の愛称で通り同級生にも上級生にも篤く愛慕された。一体に鷹揚で淡白で洒脱味あり生れながらにして一種の風格を具へていた。しかし己が身を持つること厳しくいかなる厳寒の時も酷暑の日も一年以来ずっと皆勤で押し通し、詐はることが大嫌ひで一旦やり出したことは決して中途で思ひ

止つたことがない。

それらは単に成績の上下といふこと以外に弛み勝な我々の心に始終人間的な深い教訓を与へてくれた。又怒りを決して表面に現はさぬ君が毎年恒例の武道大会に或は水泳大会に一旦クラスより推されて選手となるや全く人が変つた様に満々たる闘志を以て活躍する様は実に頼もしい限りであつた。君はよき意味に於ける内剛外柔の型であつた。それが三ヶ月半にも及ぶ長い寮生活の後に突如として起つた震災に体格の殊に秀でた健康な君が俄かに犠牲にならうとは、我々はとても信ぜられない。全く夢みるやうである。併し君は既に航空機の組立工場に現に悲しくも散華してしまつたのである。我々は悲しき運命を憶ふ。願くは君、安らかに故山に眠れ。我々は力の限り職場に敢闘し君が遺志をして空しく終らしめざることを誓ふ。

(橋爪義輔)

佐々木君には不幸にも此度の災禍に遇はれ誠に哀悼に堪へません。

あの日十二月七日全く思ひもよらぬ出来事でした。その日の昼休み我々は何時ものやうに工場の日当りのいゝ場所に腰を下して君を中心に将来の夢や色々な雑談に耽りました。その時君は足の霜焼を揉みながら家はいゝなあとしんみりした口調で言はれた。独り兎の君にははるか故郷の事が偲ばれたのであらう。数日前慰問に来られたお母さんの顔がとりわけ孝心深い君の脳裏にふと浮んで来たであらう。その心静かな元氣な君が僅か十分余りの後に早くも担架に運ばれて行くといふ運命を誰が想像したでありませう。全く思ひ設けぬことであつた。もう元氣な君の声は聞かれず、深刺とした君の姿はあの瞬間以来絶えて吾々の周囲には見当らないのである。

思へば君とは一年生に上つた頃からずつと四年余りも同じ電車で通学したものである。高等科から来た君は何時も穏かな心と独特の真面目さをもつて下級生は勿論同級生をも全く兄の様な態度で導いてくれた。剣道初段で銃剣道にも長じた立派な体格の君は確か入学以来皆勤であつた。而も鷹揚で物静かであり怒りを発したのを我々は見たことがない。更に少し親しく君と交つた者は洒脱味のある反面人に知られない非常な厳重さと忍耐力とを蓄へていた事を知っているであらう。共に寮生活を始めて以来君のこの美しい性格は我々周囲の者を温かにし、我々の焦り立つ心を落着かせ和げてくれた。私はひそかに君を敬慕し頼りにもしていた。その君が突如として一陣の木枯と共に十九歳の若い命を春の花も待たで散つて行つたのである。我々は寂しい君らを先立たせたことを濟まなく思ふ。過ぐる八月二十四日の盛大な我々の動員壮行の式の行はれた後「学徒の面目だ、大いに頑張つて来春三月は再びこの学舎に凱旋しよう」と感激に声ふるはせて誓ひ合つた君は今はいづこ。私は涙にうるむ眼を閉ぢて静かに君を憶ふ。然し

航空機生産の一線に雄々しくも散華して行つた君、自足と諦念は正しくいつも変らぬその穏かな表情に伺はれた。君には後悔はなかつたであらう。最も近い級友の一人として私はさう信ずる。御冥福を祈る。  
(伊原八郎)

### 高田厚敏君に捧ぐ

○

謹んで高田君の霊に捧ぐ  
十二月七日十三時三十七分、思へば恐しい出来事だつた。そして次の瞬間君はもう此の世には居なかつたのだ。

水も断たれ電灯も停まつた寮の中で、かなしい夢の中に君の笑顔を見出し、はつとして暗い室中を見渡したのも一度や二度ではなかつた。しかし君のたのもしい笑顔は永久に僕達の前には現れなかつた。翼の治具の傍に呼べど答へぬ君は冷くうつぶせて居た。

君は本当に男らしい男だつた。良く頑張る男だつた。言ひたいと思ふ事はずばりと言ひ、やりたいと思ふ事は気持良くやり抜けて居た。あの男らしい肩をぐつと張つて相手をにらみつける時などは同じ五年生としても畏敬の念をいだかせずには置かなかつた。工場に於いては僅かな休の中にも英語の単語帳を手にした君の姿を認めて感服して居たものだ。水泳の時なども「やい浜本、今泳いだ型でいゝかや。」等とにこにこしながら寄つて来る親しみ深い男だつた。ツボンを膝つこ迄まくり上げて剣道場であそび廻つて居たのも今はなつかしい想出となつてしまつた。

動員半ばにして散つてしまつた君、君の体はもう此の世にはない。しかし君の魂は永くあの道德工場に、そして我等の胸中にとどまつて、僕等をそして翼の戦士を元気づけて呉れるに違ひない。僕はそれを信じて居る。僕もやがては大君の為散つて行く体。それ迄断じて頑張り抜く。高田君、やすらかに眠つて呉れ。

■謹んで冥福を祈る

(浜本祐司)

○

「来年の三月迄起居を共にするのだ。兄弟の如くやらう。」と無難作に云ひ合つた飯田を出発したのは八月二十六日の朝であつた。そして大江寮の一室に旅装を解きその日

から楽しい故郷の夢を結び合ひ、又新たななるあの日の感激——飯田駅頭で送つてくれた下級生のあの声あの姿——を思ひ、胸轟かし乍ら航空機増産第一歩のハンマー作業を行つたのは二十八日の事である。夏の休暇が済んで間もない事とて暑さは身にこたへ、一心に振ふハンマーの柄は油汗でにちやにちやし炎熱下の工場作業の苦闘を生れて始めて味つたのである。慣れない手つきで「ごしごし」洗濯して居る高田の姿を見出したのも着寮後間もなくのことであつた。「どうも母が洗ふやうに綺麗にならん。」等云ひ乍らもきれいな好きは彼はさつぱりした洗ひ物に自足の微笑を湛へていた。又彼はよく疲れた君を厭ふことなく洋服の綻びもつくろつた。そして親の有難さを始終口にして居た孝心深い彼であつた。今八月以来共に生活した日記を讀返せば懐しい思出を生む。然し懐しい思出として共に語れぬ悲しさ。彼は沸々たる熱情を身内に抱き実行そのもの人であり、意志の人であつた。我々は其のはつきりした性格を愛し其の男らしき行動に愛敬の目を向けて居た。

然るに嗚呼、思ひだにせぬ青天の霹靂、突如襲ひし天災は我が見る前で無惨幾多の同胞を天国遠く奪ひ去つた。一人々々死線に乗越えて来た班員に「高田は、」と声慄はして安否を聞けども誰もありと答えず、「外に居らねばきつと我々の如く中に居る。」と互に励し合ひ無事を祈つて崩壊した梁の下を潜つて探した。「高田々々」と半泣きに叫び続けども唯応へるものは廢屋に寒きこだまのみ、寂として物音一つ聞えず。然し何処かで我々を呼ぶ彼の声が聞える感じがしその場を去るに忍びない。然るに暮れやすき冬の日にはやくも暮色蒼然として廢墟の上にひろがり今や捜査のすべも尽きはてた。眠られぬ一夜、彼の生還を心待ちにしてゐたが嗚呼遂に幽冥境を異にせしとは。

天を仰げど地の果を眺めやれど遂に再び我が前に元氣なる彼の姿を見ず。然れども静かに思ふ、君の殉職は一線将兵の戦死に異ならず。我只憤激米英撃滅を誓ふのみ。  
(木下健)

昭和二十年三月二十日印刷  
昭和二十年四月一日発行

編集兼発行人

長野県飯田中学校  
藤原芳男

印刷所

長野県飯田中本字上飯田四五六二  
南信印刷株式会社  
(長野七九)

発行所

長野県飯田中学校